

# 大沼から全国、そして世界へ ～「森林づくり塾」発～

## 駒ヶ岳・大沼森林環境保全ふれあいセンター

北海道函館水産高等学校 海洋技術科 2 年 水戸 隆太  
同 水産食品科 教諭 我妻 雅夫  
駒ヶ岳・大沼森林環境保全ふれあいセンター 福士 忍

### 1 はじめに

函館水産高校は富栄養化により水質悪化が問題になっている国定公園「大沼」の水質改善活動に平成 19 年度から取り組んできました。この間、富栄養化の原因のひとつとして考えられている大沼周辺の牧草地から濁流に乗って流れ出る不完熟堆肥の完熟化の試みや、大沼流入河川水の C O D 調査に取り組んできました。

これらの活動を通して、新たに森の活動を加えることにしました。C O D 調査結果から、清浄な水は間違いなくしっかりした森が生み出すことがわかったからです。このことを受けて、平成 22 年度から駒ヶ岳・大沼森林環境保全ふれあいセンター主催の「森林づくり塾」に参加するようになりました。

この「森林づくり塾」活動を通して、森林づくりの重要性や大変さを知り、その体験を作文にして「（森の）聞き書き甲子園」や「子どもの水辺」に応募した結果、参加を認められ、私たちの活動場所が広がりました。

本稿では、「森林づくり塾」が私たちに新たにもたらした副次的成果、すなわち全国、世界レベルのフォーラム等への参加について報告します。

### 2 大沼水質改善活動の歴史

本校は平成 18 年度から 3 年間、北海道教育委員会主催事業である「北のくにづくり」の研究指定校に指定され、函館商業高校、大野農業高校と協力し合って「食と観光」のテーマの下、函館圏の観光活性化に関する研究に取り組みました。

大沼との出会いは、大沼の水が富栄養化により水質悪化が激しく、大きな問題になっていることを知り、本校の力で何とか大沼の水質を改善できないものかと平成 19 年度から取り組みました。

一番最初に手がけたものは、E M ぼかしによる無臭完熟堆肥づくりでした。

次ぎに平成 20 年度から手がけたものが、大沼に流入する 3 つの河川の C O D を測定することです。毎年、6 月の「世界環境デー」に、それぞれの河川の上・中・下流の C O D をパックテストで調査しました。



カリマ国有林での C O D 調査



軍川上流での C O D 調査

また、この間、大沼に棲む貴重な魚についても調べ、学園祭や七飯町民文化祭、ＪＲ五稜郭駅で発表してきました。その一例が大沼に生息するギンブナです。大沼のギンブナはほとんどメスしかなくて、毎年毎年、春の産卵期にドジョウや他のフナの精子を使わせてもらって子孫を残す「雌性発生」をしていることをポスター展示や口頭で発表してきました。

このような活動が評価され、平成 20 年度、アサヒビール主催の「環境を守る若武者育成塾」に招かれ、東京で発表することができました。



ＪＲ五稜郭駅でのパネル展示



若武者育成塾

### 3 森林づくり活動への参加

大沼の水質改善活動をいろいろ行ってきましたが、目に見える成果を挙げることができませんでした。水質改善活動が立ち往生していた時、大沼周辺の山は森が牧草地に取って代わられていることに気づき、清浄な川の水を作るのは森であることから、森の活動を導入することにしました。

この時、新聞で知ったのが駒ヶ岳・大沼森林環境保全ふれあいセンター（函館市）主催の「平成 22 年度 森林づくり塾」の参加募集記事でした。早速、応募して参加しました。この後も、平成 23 年度、24 年度と連続して参加しました。

この塾では、植林から下刈、間伐を体験でき、さらに山の植生や苗木づくりの現場視察もありました。これらの体験を通して、森づくりの大変さと森の重要性を知りました。



平成 22 年度 森林づくり塾



カリマ国有林での植樹作業



間伐材の枝打ち作業



間伐作業



下刈作業



恵山の植生観察会

#### 4 森林づくり塾の体験が私たちに新たな体験をもたらしてくれた

「平成 22 年度 森林づくり塾」に本校から初めて参加した作道奏太先輩（現酪農学園大学 1 年生）は、この時の体験を文にして「森の聞き書き甲子園」に応募したところ、見事、聞き書き甲子園生となり、全国から選ばれた高校生 100 名のひとりとして参加しました。作道先輩は青森県今別町にお住まいの青森ヒバ育苗名人である「相内長男」氏を訪問して、平成 22 年度の聞き書きレポートを書きました。

さらに作道先輩は、「平成 23 年度 子どもの水辺フォーラム東京大会」にも応募して、全国から選ばれた中高生 32 名のひとりとして参加しました。このフォーラムでは、アイヌの人々の森や水に対する畏敬の念を発表しました。

そして、フォーラム最終日に参加者全員による投票の結果、作道先輩は翌年 3 月にフランス マルセイユで開催される「世界水フォーラム」に日本代表 6 名の内のひとりに選ばれました。フランスでは日本の自然に対する物の考え方としてアイヌの人々の森や水に対する畏敬の念を発表してきました。

平成 24 年度は、やはり「森林づくり塾」に参加した山田先輩と私が、それぞれ「聞き書き甲子園」と「子どもの水辺 千葉大会」に参加することができました。

山田先輩は、山梨県大月市にお住まいの水源林整備名人「相馬福平」氏を訪問して、神奈川県の水源環境税による森林整備について聞き書きレポートを完成しました。

私は千葉県君津市で行われた「子どもの水辺」で、実際に水辺活動を体験してきました。



青森ヒバ育苗名人「相内長男」氏(右)と



子どもの水辺フォーラム東京大会参加者



フランス大会でプレゼンする作道先輩



H24「聞き書き甲子園」高尾山研修



水源林整備名人「相馬福平」氏

## 5 考察

私たちの活動は、学校の部活動や委員会活動などの組織としての活動ではなく、自主的にやりたい生徒だけが活動している根無し草のような非力な活動です。毎年、本校の数人が森や水辺の活動をしているに過ぎません。こういう中であって、「森林づくり塾」の体験は私たちに全国や世界へ飛び出すきっかけをもたらしてくれたことを考えると、私たちの活動を部活動や同好会のような組織を作って、本校はもとより、地域を巻き込んだ活動に広げていく使命を感じます。

大沼が、昨年、悲願であったラムサール条約に登録された今こそ、大沼に関する産業、行政、住民はもとより、心ある市民が一堂に会して、真剣に大沼の水質改善活動を行う時だと思います。